

# なんであの選手、 育成ドラフトだったんだろう？

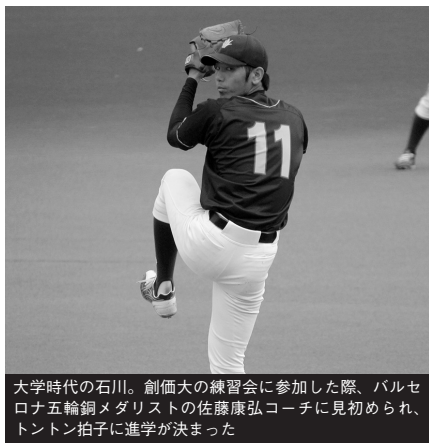
## 都立高出身の遅咲き右腕・石川柊太

千賀、甲斐とともに「育成ホークス」を印象づけたのは、石川柊太のブレイクだった。昨季は先発・リリーフともにこなし、34試合に登板して8勝3敗と優勝に貢献している。

石川は創価大4年時の2013年育成ドラフト1位指名を受け、ソフトバンクに入団した。高校は都立の総合工科高だった。

「いま『パワーカーブ』って呼ばれているボールは、高校では投げていません。高校時代は腕の位置もスリークオーターくらいで、スライダー系のカーブを投げていましたから」

当時を振り返るのは、高校時代の恩師であ



大学時代の石川。創価大の練習会に参加した際、バルセロナ五輪銅メダリストの佐藤康弘コーチに見初められ、トントン拍子に進学が決まった

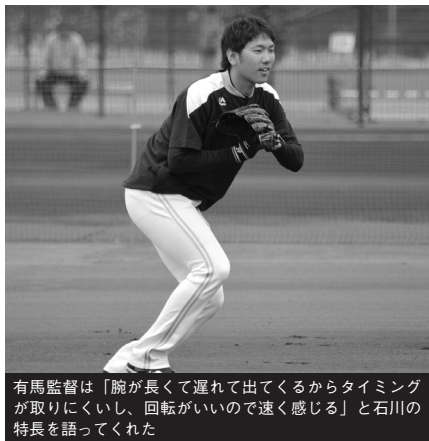
る有馬信夫監督（足立新田高へ異動）だ。1999年に都立の城東高を甲子園に導いた名將として知られている。

高校時代は中心投手として夏の東京東ベスト8進出に貢献した石川だが、現在の活躍を想起させるような片鱗は見えなかった。

有馬監督はキツパリと言っ

「創価大さんの指導のお陰です！」

創価大では1学年上に絶対的エースの小川泰弘（ヤクルト）がおり、3年間ほとんど出番がなかった。4年時に活躍して育成ドラフト指名を受けるが、創価大の岸雅司監督は「出てくるのが遅かったからスカウトの評価がもう一つでしたが、本来は本指名を受けるよう



有馬監督は「腕が長くて遅れて出てくるからタイミングが取りにくいし、回転がいいので速く感じる」と石川の特長を語ってくれた

な選手でした」と語っていた。

石川が大学、プロで成長した要因について、有馬監督は「性格」を挙げる。

「あっけらかんとした性格がよかつたんじゃないかな。ガツガツはしてないんだけど、あいつのよさをソフトバンクさんが引き出してくれた。千賀くんと仲がよかつたことも技術的な成長につながつたんじゃないかな」

現在も石川とつき合っている有馬監督だが、今オフにあった出来事を実にうれしそうに語ってくれた。

「正月に会ったとき『金、貯めとけよ』と言ったんだけど、あいつは『使わなけりゃ貯まっていくんですよ』なんてぬかしやがつた（笑）。給料が上がっても変わらないし、浮かれるような男でもない。本当にいい子なんですよ。だから『お前は金持ちになったけど、いつもの店に行くぞ』と言って、いつも入る食べ放題の店に入りましたよ（笑）」

## 弱小校出身の新たな若鷹・長谷川宙輝

次々と大ヒットが飛び出すソフトバンクの育成選手だが、さらに新星が現れようとしている。昨夏の甲子園大会期間中、あるソフトバンクスカウトからこんな話を聞いた。

「長谷川がとんでもないことになっていますよ！」